

BUDDHIST WORLD

2015年度
第1号
通巻第1号

世界仏教文化研究センター設立について

世界仏教文化研究センター長 能仁 正顕

龍谷大学は、寛永16年（1639）、西本願寺の阿弥陀堂北側に、学問研究機関として創設された「学寮（学林）」に始まります。明治期に入ると、大教校、真宗学寮、大学林、仏教専門学校、仏教大学へとその名称を変更し、大正11年（1922）に今の「龍谷大学」となりました。

その当時、本学をとりまく社会環境は大きく変わりました。浄土真宗は海を渡ってアメリカをはじめ、アジア各地へ伝播し、世界に向けて広く活動を展開していくとともに、一方で伝統的な仏教研究のあり方に西欧の科学的・実証的な方法論が導入され、近代化がはかられました。

創設以来、先人が進取の精神をもって積み重ねてきた仏教の研鑽を礎として歩んできたのが、我が龍谷大学です。

2015年4月、そうした龍谷大学に、新たに世界仏教文化研究センターが設立されました。当センターは、本学の歴史と伝統を継承するとともに、現代社会のかかえる課題に即応する形で研究を展開し、世界における仏教の総合的学術研究の拠点形成を目指しています。

当センターは、大きく分けて、（1）基礎研究部門、（2）応用研究部門、（3）国際研究部門の三部門から成ります。

（1）基礎研究部門では、仏教の教理・教学の研究、歴史文化の研究、さらに、本学貴重書ほか各地の写本・古文献などの研究を進めます。

（2）応用研究部門では、現代社会に生きる人びとの苦悩と向き合い、仏教の思想・教学を応用し、教育、医療、ビハーラ活動、グリーンケア、人権擁護、非暴力と平和な世界の構築、生命倫理、環境保護などにかかわって、実践を生みだす研究を進めます。

（3）国際研究部門では、E-Journalの刊行などを通じて国際的な情報発信を行うとともに、国際シンポジウムの開催などを通して海外諸宗教研究機関との交流を推進し、国際性をそなえた若手研究者の育成と国際的な研究者交流を進めます。

以上のような研究活動を通して、浄土真宗を建学の精神とする龍谷大学における本センターの使命を果たしてまいります。



◇世界仏教文化研究センター 2015年度 研究体制

センター長

能仁 正顕 龍谷大学 文学部・教授

副センター長

鍋島 直樹 龍谷大学 文学部・教授

1) 基礎研究部門 (教義的・歴史的・文化学的・文献学的研究)

楠 淳證 (部門統括者) 龍谷大学 文学部・教授

1. 親鸞浄土教総合研究班

杉岡 孝紀 (研究班長) 龍谷大学 農学部・教授

川添 泰信、那須 英勝、玉木 興慈、高田 文英、龍溪 章雄、深川 宣暢、嵩 満也、鍋島 直樹、殿内 恒、井上 善幸、井上 見淳、藤 能成、武田 晋、岩田 真美、田畑 正久、葛野 洋明、貴島 信行、早島 理、佐々木 大悟、能美 潤史

2. 西域総合研究班

三谷 真澄 (研究班長) 龍谷大学 国際学部・教授

入澤 崇、木田 知生、北村 高、岡田 至弘、徐 光輝、市川 良文、福山 泰子、村岡 倫、岩井 俊平、宮治 昭、渡邊 久、中田 裕子、曾我 麻佐子、石川 知彦、和田 秀寿、岩田 朋子、村松 加奈子、大島 幸代、松岡 久美子

3. 古典籍・大蔵経総合研究班

道元 徹心 (研究班長) 龍谷大学 理工学部・教授

長谷川 岳史、野呂 靖、若原 雄昭、芳村 博実、楠 淳證、能仁 正顕、青原 令知、藤丸 要、三谷 真澄、岡本 健資、吉田 哲、藤田 保幸、余田 弘実

4. 仏教史・真宗史総合研究班

中西 直樹 (研究班長) 龍谷大学 文学部・教授

赤松 徹真、中川 修、藤原 正信、市川 良文

5. 特定公募研究

能仁 正顕、岡本 健資、岩田 朋子、宮治 昭、殿内 恒、井上 善幸、井上 見淳、能美 潤史、近藤 真美、濱田 正美、渡邊 久、和田 恭幸、安藤 徹、玉井 鉄宗

2) 応用研究部門 (社会的諸課題への応答・仏教の現代的意義の追求)

鍋島 直樹 (部門統括者) 龍谷大学 文学部・教授、CHSR センター長

若原 雄昭 (研究班長) 龍谷大学 文学部・教授、龍谷大学 副学長

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター (CHSR)

ユニット1 (日本におけるグリーフサポートの実践モデルの開発的研究)

玉木 興慈 (ユニットリーダー) 龍谷大学 短期大学部・教授

黒川 雅代子、吾勝 常行、加藤 博史、田畑 正久、高田 文英、武田 晋、那須 英勝、早島 理、深川 宣暢、打本 弘祐

ユニット1 客員研究員

坂口 幸弘 (関西学院大学 人間福祉学部・教授)、リチャード・ペイン (米国仏教大学院・院長)、マーク・海野 (オレゴン大学・准教授)

ユニット2 (仏教・浄土教を基軸としたグリーフサポートと救済観の研究)

井上 善幸 (ユニットリーダー) 龍谷大学 法学部・教授

杉岡 孝紀、高田 信良、松居 竜五、都築 晶子、川添 泰信、龍溪 章雄、楠 淳證、殿内 恒、井上 見淳

ユニット2 客員研究員

ジャネット・ギャツォ (ハーバード大学・教授)、デビッド・松本 (神学大学院連合・教授)

嘱託研究員

林 智康 (龍谷大学・名誉教授)、内藤 知康 (龍谷大学・名誉教授)、廣田 デニス (龍谷大学・名誉教授)

アジア仏教文化研究センター (BARC)

右表参照

3) 国際研究部門 (国際的な発信と研究者交流)

那須 英勝 (部門統括者) 龍谷大学 文学部・教授

入澤 崇、嵩 満也、藤 能成、木田 知生、若原 雄昭

博士研究員

唐澤 太輔 (国際研究部門)

リサーチ・アシスタント

亀山 隆彦 (国際研究部門)

李 曼寧 (基礎研究部門)

◆アジア仏教文化研究センター（BARC） 2015年度 研究体制

グループ1（通時的研究班）ユニットA：日本仏教の形成と展開

楠 淳證（センター長）	龍谷大学 文学部・教授
宮治 昭	龍谷大学 文学部・教授
入澤 崇	龍谷大学 文学部・教授
中川 修	龍谷大学 文学部・教授
道元 徹心	龍谷大学 理工学部・教授
土屋 和三	龍谷大学 文学部・教授
藤丸 要	龍谷大学 文学部・教授
長谷川 岳史	龍谷大学 経営学部・教授
川添 泰信	龍谷大学 文学部・教授
杉岡 孝紀（ユニット長）	龍谷大学 農学部・教授
玉木 興慈	龍谷大学 短期大学部・教授
高田 文英	龍谷大学 文学部・准教授
村岡 倫	龍谷大学 文学部・教授
渡邊 久	龍谷大学 文学部・教授
蓑輪 顕量	東京大学大学院人文社会系研究科・教授
西谷 功	泉涌寺宝物館・学芸員

グループ1（通時的研究班）ユニットB：近代日本仏教と国際社会

赤松 徹真	龍谷大学 文学部・教授
	龍谷大学・学長
龍溪 章雄	龍谷大学 文学部・教授
中西 直樹（グループ長）	龍谷大学 文学部・教授
岩田 真美	龍谷大学 文学部・講師
能仁 正顕	龍谷大学 文学部・教授
三谷 真澄（ユニット長）	龍谷大学 国際学部・教授
市川 良文	龍谷大学 文学部・准教授
松居 竜五	龍谷大学 国際学部・教授
林 行夫	京都大学 地域研究統合情報センター（CIAS）・教授
吉永 進一	舞鶴工業高等専門学校・教授
大澤 広嗣	文化庁文化部宗務課専門職
リチャード・ジャフィ	デューク大学・准教授

グループ2（共時的研究班）ユニットA：現代日本仏教の社会性・公益性

高 満也	龍谷大学 国際学部・教授
藤 能成	龍谷大学 文学部・教授
若原 雄昭（ユニット長）	龍谷大学 文学部・教授
岡本 健資	龍谷大学 政策学部・准教授
長上 深雪	龍谷大学 社会学部・教授
野呂 靖	龍谷大学 文学部・講師
竹本 了悟	浄土真宗本願寺派総合研究所・研究員
マーク・ロウ	マクマスター大学・准教授

グループ2（共時的研究班）ユニットB：多文化共生社会における日本仏教の課題と展望

高田 信良	龍谷大学 文学部・教授
那須 英勝（副センター長、グループ長、ユニット長）	龍谷大学 文学部・教授
小原 克博	同志社大学・教授、良心学研究センター長
ダンカン・ウィリアムズ	南カリフォルニア大学・教授
本多 彩	兵庫大学・准教授

研究フェロー

浅田 正博	龍谷大学 世界仏教文化研究センター・研究フェロー
桂 紹隆	龍谷大学 世界仏教文化研究センター・研究フェロー
佐藤 智水	龍谷大学 世界仏教文化研究センター・研究フェロー

博士研究員・リサーチアシスタント

碧海 寿広	博士研究員
桑原 昭信	博士研究員
打本 和音	リサーチアシスタント
村上 明也	リサーチアシスタント

2015年7月23日(木)、龍谷大学世界仏教文化研究センター設立記念講演会「仏教が繋ぐアジアのネットワーク～親交の架け橋～」が開催された。

初めに、スタン・シャキャ氏(種智院大学人文学部准教授)が、近代仏教学における、ネパール仏教写本研究の意義について講演された。続いて、シャキャ氏の講演を受けて、コメンテーターの加納和雄氏(高野山大学文学部准教授)が、梵文写本は、文献研究における一次資料としてはもちろん、仏教文化の研究を行う上でも非常に重要な意義を持っていることを指摘された。

楠秀峰師(浄土真宗本願寺派社会部長<災害対策>)は、自身が務めておられる特定非営利活動法人 JIPPO の世界各地における活動について講演された。また、ネパール大地震後の本願寺による支援活動の内容を、現地の写真を交えて説明された。

ソナム・ワンディ・プティヤ師(浄土真宗本願寺派ネパール開教地開教事務所長)は、ネパール大地震後の現地の復興作業の状況や学校支援に関する活動について日本語で講演された。また、復興を願う現地の人々によって制作されたミュージックビデオも上映された。

桂紹隆氏(世界仏教文化研究センター研究フェロー、広島大学名誉教授)は、仏教研究・写本研究の最前線に関して講演され、これからの仏教研究者に対する期待を語られた。

楠師、ソナム師、桂氏の講演を受け、シャキャ氏と加納氏によってコメントが行われた。シャキャ氏は、「師」「場」「資」の三つの語を示し、仏教研究の社会還元について述べられた。加納氏は、研究者にとって、仏教を介して世界をつないでいくことが最も重要であることを述べられた。



ソナム・ワンディ・プティヤ師

10月20日(火)、龍谷大学世界仏教文化研究センター設立記念シンポジウム(外務省認定・日韓国交正常化50周年記念事業)「仏教を通じた日韓文化交流の歴史と展望—未来への伝灯—」が開催された。例年、韓国の東国大学校と行われている交換講義を、今年度は、日韓国交正常化50周年、さらに戦後70年という歴史的な意義に鑑みて、「シンポジウム」という形で盛大に開催された。

来賓挨拶として、大谷光真師(浄土真宗本願寺派前門主)より、センター設立への祝辞を賜った。

次に、宗浩(朴文基)師(東国大学校佛敎大学院・佛敎大学長)による基調講演が行われた。宗浩師は、古代から現代にいたる、通時的な日韓仏教交流の歴史について発表された。

第一部「時を越える—仏教の研鑽—」では、馬場久幸氏(佛敎大学非常勤講師)と藤能成氏(龍谷大学文学部教授)による講演が行われた。馬場氏は、室町時代から江戸初期にいたる高

麗版大蔵經の活用事例について述べられた。藤氏は、韓国の元暁と日本の親鸞に見られる生涯・思想の共通点について発表された。

第二部「境を越える—仏教の伝播—」では、まず赤羽奈津子氏(龍谷大学仏教文化研究所客員研究員)が、古代において渡来系氏族がもたらした寺院建築技術を中心に講演された。次に、姜文善(慧諤)氏(東国大学校佛敎大学校教授)が、真宗大谷派の奥村円心・五百子、曹洞宗の武田範之が、近現代の韓国仏教界に与えた影響について述べられた。

第三部「未来へ向けて—仏教の役割—」では、出羽孝行氏(龍谷大学文学部准教授)と金浩星氏(東国大学校佛敎大学校教授)が講演された。出羽氏は、昨今の韓国の教育事情を、教員たちの取り組みや認識などを交えて講演された。金氏は、戦争における「謝罪」の問題をとり上げ、これまでの単純な対立構造を越えた「許し」の可能性について述べられた。

最後に、第一～三部の講演のまとめ(コメント)を、龍溪章雄氏(龍谷大学文学部教授)と藤原正信氏(龍谷大学文学部教授)が行われた。なお、本シンポジウムの通訳は、藤氏と許秀美氏(龍谷大学文学部講師)が務められた。



宗浩(朴文基)師



コメンテーターによる発表のまとめ

11月30日(月)、龍谷大学世界仏教文化研究センター設立記念 Hiroshima Peace Memorial ヒロシマ被爆70年追悼「知られざるヒロシマの真実と原爆の実態」特別上映会が開催された。映画では、CGによって被爆前の広島町の様子が見事に再現されていた。また多くの被爆者からの壮絶な証言からは、悲しみとともに戦争・原爆の恐ろしさが伝わってきた。

映画上映後、監督の田邊雅章氏をお迎えして、鍋島直樹氏(世界仏教文化研究センター副センター長)と対談が行われた。そこで、田邊監督は「表現者として、作品がすべて。自分自身の体験に置き換えて考えて欲しい」と述べられた。上映・対談後、来場者の方々から大変多くの感想をいただいた(一部をセンター web サイトに匿名で掲載中)。

グループ1ユニットA（日本仏教の形成と展開）では、1月14日（木）に第1回セミナー「北嶺の論義」を開催。藤平寛田氏（天台宗典編纂所編集員、叡山学院講師）が「天台論義の基礎と文献」と題して、天台論義の研究に際して必要となる基礎的な見識について丁寧に講義した。2月28日（日）には、第2回学術講演会「華嚴経と毘盧遮那仏」を開催し、大竹晋氏（仏典翻訳家）、朴亨國氏（武蔵野美術大学教授）、肥田路美氏（早稲田大学教授）が、華嚴経の成立から同経の東アジアにおける展開まで、仏教学や美術史の最新の研究成果に基づき議論した。また、同ユニットでは、文化講演会「聖地に受け継がれし伝灯の行一修験、回峰行、そして親鸞聖人へ」を、11月30日（月）、12月7日（月）、3月5日（土）の全3回にわたり開講。宮城泰年氏（聖護院門跡）と光永覚道氏（北嶺大行満大阿闍梨、延暦寺南山坊住職）が、自身の体験から山岳修行の実態を解説し、浅田正博氏（龍谷大学名誉教授、浄土真宗本願寺派助学）が、行の観点から親鸞聖人の思想を再考。各自の専門的な知見を一般向けに平明に講じた。



宮城泰年氏

グループ1ユニットB（近代日本仏教と国際社会）では、12月10日（木）に第1回国内ワークショップ「『仏教』と『農業』のあいだ—大谷光瑞師のトルコでの動向を中心として—」を開催。ヤマンラール水野美奈子氏（龍谷大学国際社会文化研究所客員研究員）、玉井鉄宗氏（龍谷大学農学部助教）、三谷真澄氏（龍谷大学国際学部教授）が、大谷光瑞の農業への関与について多角的に検討した。特に玉井氏の報告は、光瑞が発案した「立体農法」の実効性の有無を実験により検証することで、光瑞の「農学者」としての独創性の一端を明らかにした。また、2月25日には本ユニットより、「龍谷大学アジア仏教文化研究叢書1」として、中西直樹ほか編『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流【編集復刻版】』（不二出版）を刊行。十五年戦争下における日本仏教の関係者による、欧米やアジアの仏教者たちとの協力・提携のあり様を浮き彫りにするための基礎的な資料集を提供した。

グループ2ユニットA（現代日本仏教の社会性・公益性）では、11月9日（月）に、ボーディ・ダンマ氏（全インド仏教青年連盟会長）が「テランガーナ州における仏教運動の展開」と題して、自身が指導者として活躍している、現代インドにおける仏教改宗運動の動向を紹介した。1月15日（金）には、K. プラボンサック氏（2015年度 BARC 公募研究員）が「青少年の倫理問題に答えるタイ仏教」と題し、現代社会における青少年の道徳改善に取り組むタイ仏教界の新たな動きについて、フィールドワークの成果を活かして鮮明に報告した。



ボーディ・ダンマ氏

また2月22日（月）には、第1回国内ワークショップ「自死問題に向き合う仏教者の活動とその理念」を開催。小川有閑氏（浄土宗総合研究所）、宇野全智氏（曹洞宗総合研究センター）、竹本了悟氏（浄土真宗本願寺派総合研究所）が、各宗派における自死問題への取り組みとその背景にある理念について、意見交換と議論を行った。

グループ2ユニットB（多文化共生社会における日本仏教の課題と展望）では、10月22日（木）に第1回ワークショップ「Diversity in Asian Religions and Japanese Buddhism」を、デンマークから来日したオーフス大学の研究者たちと共に開催。宗教多様性に関する研究ネットワークの、アジアや日本への展開について討議された。また、12月14日（月）には、第1回国際シンポジウム「多文化共生社会における宗教間対話（Interfaith Dialogue）」を開催し、大來尚順氏（公益財団法人 仏教伝道協会）、アレック・ラメイ氏（上智大学言語教育研究センター講師）、東馬場郁生氏（天理大学国際学部教授）小原克博氏（同志社大学神学部教授）、高田信良氏（龍谷大学文学部教授）らが、宗教間対話の理論と実践について討論した。



オーフス大学の研究者たちと共に



宗教間対話をめぐる討論会

アジア仏教文化研究センター 第二期プロジェクト始動

アジア仏教文化研究センター長 楠 淳證

この度、アジア仏教文化研究センター（BARC）は世界仏教文化研究センター傘下のもと、文部科学省の推進する「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に、「日本仏教の通時的・共時的研究—多文化共生社会における課題と展望—」と題する研究プロジェクト（平成 27 年度～平成 31 年度）を申請し、採択されました。平成 22 年度～平成 26 年度に実施された前プロジェクト「アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究」に続く、第二期のプロジェクトとなります。

本研究プロジェクトは、龍谷大学が 376 年にわたって研鑽し続けてきた日本仏教の成果を踏まえ、これをさらに推進し、日本仏教を世界的視野から通時的共時的にとらえるとともに、日本仏教が直面する諸課題を多文化共生の文脈で学際的に追究し、今後の日本仏教の持つ意義を展望するものです。



このような研究のあり方を有機的に進めるため、本研究プロジェクトでは通時的研究グループ（ユニット A「日本仏教の形成と展開」、ユニット B「近代日本仏教と国際社会」）と共時的研究グループ（ユニット A「現代日本仏教の社会性・公益性」、ユニット B「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」）の 2 つに分け、さらに 9 つのサブユニットを設置して、基礎研究等に基づく書籍の刊行や講演会等による研究成果の公開などの諸事業を推進していくことになりました。

これらの 2 グループ、4 ユニット、9 サブユニットの研究が、単独あるいは連携のもとで有意義かつ効果的に進められ、最終年度までに「日本仏教の通時的・共時的研究—多文化共生社会における課題と展望—」についての一定の研究成果を世に示し、もって仏教研究の推進・交流を世界的レベルで行うことのできる研究基盤を形成することが、本学の第二期アジア仏教文化研究センターの目的なのです。

今後、世界仏教文化研究センターの傘下にあるアジア仏教文化研究センターが、日本仏教をテーマとして国内外に発信する諸成果にご期待いただくとともに、ご理解とご支援をたまわりますよう、ここに謹んでお願い申し上げます。

龍谷大学世界仏教文化研究センター アジア仏教文化研究センター



アジア仏教文化
Research Center for Buddhist Cultures in Asia
研究センター

BUDDHIST WORLD

発行 2016 年 3 月 16 日
発行者 龍谷大学世界仏教文化研究センター アジア仏教文化研究センター
住所 〒 600-8268
京都市下京区七条通大宮東入大工町 125 番地の 1 龍谷大学大宮キャンパス 白亜館 3 階
電話 075-343-3811
URL 世界仏教文化研究センター <http://rcwbc.ryukoku.ac.jp>
アジア仏教文化研究センター <http://barc.ryukoku.ac.jp>